

海洋安全保障情報月報

2008年9月号



目次

2008年9月の主要事象

1. 情報要約

1.1 治安

1.2 軍事

1.3 外交・国際関係

ホット・トピック：「国連大陸棚限界委員会」、大陸棚限界の延伸をニュージーランドに勧告

1.4 海運・資源・環境・その他

2. 情報分析

ソマリアの海賊事案に対する各国、機関の対応

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2008年9月の主要事象

治安：ソマリアの海賊によるアデン湾やソマリア沿岸海域でのハイジャック事案が今月も多発した。今月は9隻の船舶がハイジャックされた。その内、25日にハイジャックされた、ウクライナの Tomex Odessa Ukraine 用船のローロー船、MV *Faina* (ベリーズ籍船) には、33両のロシア製 T-72 戦車と相当量の弾薬や軍事装備が積載されていた。米海軍やロシア海軍の戦闘艦が該船を厳重に監視している。9月末現在、解放には至っていない。

一方で、これまでハイジャックされていた船舶が何隻か解放された。船舶と人質の解放に当たっては、いずれも身代金が支払われているが、詳細は公表されていない。

ソマリアの海賊事案に対する各国や関係機関の対応は、2. 分析でも取り上げた。

シンガポール国防省の18日の発表によれば、タイは、マラッカ海峡哨戒活動に参加する4番目の国となった。タイの参加はバンコクで18日、インドネシア、マレーシア、シンガポール及びタイの国軍司令官が哨戒活動に関する協定に調印し、正式に決定された。

軍事：シンガポールは2日、揚陸艦 (LST)、RSS *Resolution* をペルシャ湾岸に派遣した。RSS *Resolution* は3カ月間にわたって、沖合の石油ターミナルを防衛すると共に、哨戒・臨検活動を実施し、また同海域の多国籍軍艦艇に兵站支援を行う。

14日付の英紙、*Telegraph* (電子版) は、「マラッカ海峡を巡るインド、中国の抗争」と題する論説を掲載し、「マラッカ海峡は中国のアキレス腱」と見、同海峡を巡るインドと中国の抗争について論じている。

15日付の英誌、*Jane's Defence Weekly* (電子版) は、中国海軍が空母から固定翼機を運用できる中国初の戦闘機パイロットを養成するために、大連にある海軍アカデミーで、50人の学生に対する訓練計画を開始した、と報じた。

ロシアは22日、北洋艦隊の原子力巡洋艦、*The Peter the Great* を旗艦として、他の3隻の戦闘艦と共に、西半球に派遣した。ロシア海軍報道官によれば、派遣艦隊は、ベネズエラ海軍と合同訓練を実施することになっている。

米原子力空母、USS *George Washington* (CVN 73) は25日、米海軍横須賀基地に入港した。原子力空母の米本土以外への配備は初めてである。

ロシア軍は29日、極東地区で軍事演習、Stability-2008 を開始した。演習は10月21日まで行われる。

ロシア海軍報道官は30日、*Delta III* 級弾道ミサイル原潜 (SSBN) が130人の乗組員と共に、ロシア北部から北極海の氷海を経由して太平洋までの30日間の潜航に成功し、カムチャツカ半島の基地に到着した、と発表した。

外交・国際関係：ペルシャ湾岸6カ国で構成する湾岸協力会議 (GCC) は3日、声明を発表し、イランがホルムズ海峡の島嶼に管理事務所を設置したことを非難した。Abu Musa、Greater Tunb 及び Lesser Tunb の3つの島嶼はイランが占有しているが、アラブ首長国連邦 (UAE) が領有権を主張しており、他のアラブ諸国から広範な支持を得ている。GCCは、こうしたイランの措置がホルムズ海峡を通航する船舶に対するイランの統制力を強めることを懸念している。

バングラデシュとインドは 15 日、28 年ぶりに海洋境界画定交渉を再開した。主たる問題は、海洋境界画定の出発点として、両国の南西国境を流れる Hariabhanga 川の主流を判定することである。

国連大陸棚限界委員会 (CLCS) は 22 日、ニュージーランドに対して大陸棚外側限界の延伸勧告を行った。ニュージーランドの大陸棚外側限界の延伸の概要については、「ホット・トピック」で取り上げた。

海運・資源・環境・その他：英国の海洋沿岸警備局 (MCA) のプレス発表によれば、英国籍船の増大が続いている。それによれば、2008 年年初以来、9 月までの登録隻数は 56 隻で、船腹量は 100 万 GT を超えた。これによって英国籍船は船腹量 1,496 万 GT、1,537 隻となった。

トルコの造船会社、Cicek Shipyard は、9 月 23-26 日にハンブルグで開催された、SMM 2008 フェアで、新型の 2 万 5,000DWT 級ばら積み船のデザインを公表した。同社は、このクラスの現有ばら積み船が老朽化しつつあり、エンジンも 15~20 年前の製造で、運航コストに苦しんでいることから、多くの船主からの受注を期待している。

ロシア訪問中の韓国の李明博大統領は 29 日、メドベージェフ大統領と会談し、両国間でウラジオストクから北朝鮮経由で韓国までのパイプラインを敷設することに合意した。両国はまた、北朝鮮国境に近いロシアのポシェット (Posiet) に韓国専用の貿易港を建設することにも合意した。

1. 情報要約

1.1 治安

9月2日「インドネシア・オーストラリア、チモール海で合同哨戒実施」(Antara News, September 2, 2008)

インドネシアとオーストラリアは9月、チモール海での不法操業に対する取締りの一環として、同海域において合同であるいは調整による哨戒活動を実施する。オーストラリアの関係機関から3隻の巡視船と偵察機1機、約53人の要員が7日か8日にダーウィンを出港し、インドネシア東ヌサトゥンガラのカパンに向かう。同様の哨戒活動が2007年10月29日から11月1日まで、アラフラ海で実施されている。

9月2日「マレーシア、タンカー襲撃事案の情勢監視のために特別チーム編成」(Bernama, September 2, 2008)

マレーシア外務省は声明で、8月19日と29日にハイジャックされたMISC Bhd社の2隻のタンカーの乗組員(マレーシア人65人とフィリピン人15人)の安全な解放とアデン湾沖でのマレーシア船舶の安全航行を求めて、イエメン、ソマリア両国外務省に格段の努力を要請した、と述べた。更に外務省は、同様の襲撃事案に巻き込まれた他の諸国に対して、この問題を国連に持ち込むことを提案している、ことを明らかにした。外務省は、特別チームを領事部に設置し、あらゆる外交チャンネルを通じて最新の情勢をモニターする。

9月2日「ソマリア海賊、820万米ドルの身代金要求」(Reuters, September 2, 2008)

東アフリカ船員支援計画のムワンガラ・ケニア支部長が2日に明らかにしたところによれば、ソマリア海賊は、マレーシアの2隻のタンカー(MT *Bunga Melati Lima* と MT *Bunga Melati Dua*)と日本企業が関係する「ばら積み船」(MV *Stella Maris*)の解放に当たり820万米ドルの身代金を要求している。ムワンガラ・ケニア支部長は、海賊はマレーシアの2隻のタンカー解放に対して470万米ドルを要求しており、MV *Stella Maris*の解放には350万米ドルを要求している、と述べた。ムワンガラ・ケニア支部長は、これら3隻の船舶は(インド洋に面した)エイル(Eyl)近郊に係留されていると見ている。ムワンガラ支部長は、「エイルでは、海賊は地元民から強力な支援を受けている。ここには、1973年に漁業基地が建設され、その後放置された。ここは孤立した場所で、海賊は、部外者などが入り込めない安全な土地と見ている」と語った。ソマリアの当局者によれば、海賊はエイルに少なくとも6隻の船舶に係留しており、拘束されている人質の総数は約130人と見られる。海賊はまた、ナイジェリアのタグボート、MT *Yenegoa Ocean*に対しても100万米ドルの身代金を要求している。

タンカーの船主、マレーシアのMISC Bhd社は2日の声明で、同社が船舶と乗組員の安全を確保する新たな手段を取るまで、同社の保有船舶がアデン湾に入ることを禁止することを明らかにした。一方、ラザク副首相兼国防相は、この海域にいる同社の4隻の船舶を護衛するため海軍戦闘艦を派遣したことを明らかにし、「我々の最優先課題は船員の安全確保であり、国際法に準拠して必要なあらゆる手段を取る」と強調した。

9月3日「ソマリア海賊、エジプト船と仏ヨットをハイジャック」(Reuters, September 4, 2008)

ソマリアのプントランド自治政府の鉱物資源相によれば、ソマリア海賊は3日、エジプトの船と2人のフランス人が乗ったヨットをハイジャックし、エイルに曳航している。同相によれば、エイルには10隻前後の船舶が係留されている。エジプト外務省は、エジプト船がハイジャックされたことを確認した。フランス外務省も、ヨットのハイジャックを確認した。フランス海軍報道官は4日、ジブチに駐留する部隊が直ちに介入できるが、人員の安全確認が最優先である、と語った。

他方、プントランド自治政府の漁業・海洋資源相は、船主による身代金の支払いが汚職の蔓延と海賊の暗躍を引き起こしていると非難し、「我々は海賊の増殖を抑える何の力もない。自治政府の警察の一部でさえ海賊行為に加担している。何故なら、多額の金を稼げるからである」と指摘している。その上で、同相は、船主や関係政府は身代金を支払うべきでないとし、「海賊が要求通りの金を得れば、海賊は国際社会にとって益々危険になろう。我々は、関係政府に海賊を攻撃することを求める。我々はそれを歓迎する」と強調した。

【関連記事 1】

5日付のロシアのWebサイト、*Maritime Bulletin - Sovfracht*によれば、ハイジャックされたエジプト船は *MV Al Mansourah* (9,549GT) で、セメントを積んでパキスタンのビン・カシム (Bin Quasim) からジブチに向かっていた。乗組員は25人で、現在アルラ (Allula) に係留されている。(Maritime Bulletin - Sovfracht, September 5, 2008)

MV Al Mansourah

http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=146

【関連記事 2】**「海賊、ヨットを母船に利用」(Fairplay Daily News, September 8, 2008)**

東アフリカ船員支援計画のムワングラ・ケニア支部長によれば、3日にオーストラリアからフランスに向かう途中でハイジャックされたフランスの2本マストのヨット、*Carre D'as IV* (ベネズエラ籍船) は、ハイジャッカーの母船として利用されている。ソマリアからの報道によれば、乗っていた2人のフランス人カップルは「アフリカの角」近海で下ろされ、陸上のギャング・グループに山岳地帯に連れ去られたという。海賊は、140万米ドルを超える身代金とフランス国内に拘束されている6人のソマリア人海賊(2008年4月のヨット・ハイジャック事案で拘束)の解放を求めている。

ムワングラ支部長によれば、この海域における海賊の母船団は現在、約8隻で構成されていると見られ、2隻が漁船、1隻がタグボート、数隻のダウ船、そして *Carre D'as IV* である。また、ソマリア

で拘束されている船舶は 10 隻、乗組員は 130 人を超えている。

Carre D'as IV

http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=149

【関連記事 3】

「仏特殊部隊、海賊を急襲、仏人人質を解放」(Times Online, September 16, 2008)

フランス海軍特殊部隊は 15 日、ソマリアの海賊に 9 月 3 日にハイジャックされたヨット、*Carre D'as IV* を急襲し、フランス人 2 人を解放した。戦闘で海賊 1 人が死亡し、6 人が拘束された。サルコジ大統領は、真夜中の完璧な作戦遂行を賞賛し、ハイジャッカーに警告を与えた、と述べた。急襲部隊は 30 人の特殊部隊で、フランス海軍の戦闘艦がハイジャックされて以来、ヨットを監視していた。フランスの特殊部隊による人質解放は、4 月に続いて 2 度目である。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 4 月号 1.1 参照)

【関連記事 4】

「ソマリア海賊、エジプト船を解放」(Reuters, September 27, 2008)

エジプト国営通信、*Middle East News Agency* (MENA) が 27 日報じたところによれば、ソマリアの海賊は 3 日にハイジャックしたエジプト船、*MV Al Mansourah* (9,549GT) と 25 人の乗組員を解放した。同通信によれば、海賊は 8 日に身代金を要求してきたという。しかし、要求に応じたかどうかは明らかでない。

9 月 5 日「マレーシア海軍、3 隻の戦闘艦をアデン湾に派遣」(The Star, September 5, 2008)

アデン湾を航行するマレーシアの船舶を護衛するため、マレーシア海軍の 3 隻の戦闘艦が海賊事案の多発するアデン湾に向かっている。フリゲート、*KD Lekiu* と補給艦、*KD Sri Inderapura* は既にモルディブに到着しており、新世代の哨戒艦、*KD Pahang* が間もなくアデン湾に向けて出港する。ラザク副首相兼国防相は、3 隻の戦闘艦には陸、海、空軍の将兵が乗艦しており、この海域を航行中の 5 隻の MISC Bhd 社の船舶を護衛することになる、と語った。派遣戦闘艦には、数機のヘリも搭載されている。

【関連記事 1】

「マレーシア戦闘艦、アデン湾沖に到着」(The New Straits Times, September 8, 2008)

マレーシア海軍の 3 隻の戦闘艦、*KD Pahang*、*KD Lekiu* 及び *KD Sri Inderapura* は 7 日にアデ

ン湾沖に到着したと見られる。マレーシアの2隻のタンカー、MT *Bunga Melati Dua* と MT *Bunga Melati Lima* は、インド洋に面したエイルに係留されている。7月20日以来、191人のマレーシア人が人質となっている。マレーシア海軍のジャーファル (ADM Abdul Jaafar) 司令官は、「ハイジャッカーは、MISC Bhd 社に対して、如何なる政府の介入を望んでいないと通告しており、従って乗組員の安全を考慮しなければならない」と述べた。同司令官はまた、派遣艦隊の任務は海賊との戦闘ではないが、この派遣はマレーシア海軍の能力をテストすると共に、海賊に対する威嚇効果を与えるものである、と述べた。同司令官によれば、MISC Bhd 社による交渉を妨げないために、艦隊はタンカーの視界外に留まる。

【関連記事2】

「マレーシア海軍戦闘艦、海賊対策の哨戒活動参加未定」(Bernama, September 22, 2008)

マレーシアのアジズ (Gen. Abdul Aziz) 国軍司令官は22日、マレーシアはアデン湾での国際的な哨戒活動に参加するかどうかは決めていない、と述べた。マレーシアは現在、この海域を航行するマレーシアの商船を護衛するために、3隻の海軍戦闘艦を派遣している。アジズ司令官は、これは海賊対処に直接参加することを意味しないと明言した。

9月6日「ノルウェー船ハイジャック未遂、ハイジャッカーを拘束」(Aftenposten <Norway>, September 9, 2008)

ノルウェーのタンカー、MT *Front Voyager* は6日、アデン湾沖を航行中、ソマリアからと見られる高速ボートに乗った海賊に襲撃され、10~15発発砲されたが、1発も命中しなかった。該船は、付近の海域にいた、デンマーク海軍の *Absalon* とコンタクトを取り、*Absalon* からヘリが発進した。ヘリが到着し、海賊は拘束され、付近の米艦に移送された。該船は海賊を近付けないために、放水砲 (water cannon) を使用した。船長が本紙 (ノルウェー紙、Aftenposten) に語ったところによれば、放水砲は極めて強力であったという。該船にはロシア人士官とフィリピン人船員約25人が乗っており、現在、シンガポールに向けて航行中である。

MT *Front Voyager*

MT *Front Voyager* を襲撃した海賊

Source: Aftenposten, September 9, 2008
<http://www.aftenposten.no/english/local/article2642781.ece>

9月7日「アデン湾沖で3隻のハイジャック未遂事案」(The Straits Times, September 9, 2008)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、5日から7日にかけて、アデン湾沖で3隻のハイジャック未遂事案があった。中国の貨物船が5日に、シンガポール

の LNG タンカーが 6 日に、そしてタイのばら積み船が 7 日に、それぞれロケット推進擲弾筒で武装した海賊に攻撃されたが、いずれも速度を上げ、回避行動を取って逃れた。いずれも負傷者はなかった。

9 月 10 日「ソマリア海賊、韓国貨物船ハイジャック」(The Earth Times, September 10, 2008)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、ソマリアの海賊は 10 日、アデン湾沖で韓国のばら積み船をハイジャックした。該船は貨物満載で欧州からアジアに向けて航行中であった。ロシアの Web サイト、Maritime Bulletin - Sovfracht によれば、ハイジャックされた韓国籍船は、MV *Bright Ruby* (1 万 5,872GT) で、乗組員は 21 人で、その内、韓国人は 9 人、他は不明である。(Maritime Bulletin - Sovfracht, September 10, 2008)

MV *Bright Ruby* (1 万 5,872GT)

Source: Maritime Bulletin - Sovfracht, September 10, 2008
http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=1541

チョーン所長によれば、同じ 10 日に、ギリシャのばら積み船がアデン湾で攻撃されたが、直ちに付近にいた多国籍海軍部隊に連絡し、艦艇とヘリを急派したことで、ハイジャックは未遂に終わった。

9 月 11 日「ソマリア海賊、ドイツ船、日本関係船を解放」(Shiptalk, September 11, and Reuters, September 12, 2008)

ソマリアの海賊は 11 日、ドイツの貨物船、BBC *Trinidad* (9,775DWT) を 13 人の乗組員と共に解放した。東アフリカ船員支援計画のムワングラ・ケニア支部長によれば、100 万米ドル以上の身代金が支払われたと見られる。該船はテキサスのヒューストンからオマーンに向かう途中、アデン湾で 8 月 21 日にハイジャックされた。

日本の興洋海運が関係する (パナマ籍船) のケミカル・タンカー、MV *Irene* (7,373GT) については、該船が係留されているソマリア北部のプントランドの海賊基地に近い筋は、該船の解放を確認した。ムワングラ・ケニア支部長は、「海賊は約 247 万米ドルの身代金を要求していた。手にした額は恐らくこれより少ないと見られるが、詳細は分からない」と語った。

9 月 12 日「米国など 10 カ国、太平洋監視作戦実施」(Radio Australia, September 12, 2008)

12 日の *Radio Australia* によれば、太平洋諸国とオーストラリア、フランス及び米国の 10 カ国からの関係諸機関は、南太平洋で監視作戦、Operation Kuru-Kuru を実施している。この作戦は、1,000

万平方マイルの海域をカバーするもので、密航、密輸あるいは密漁などの不法活動を監視することが狙いである。ソロモン諸島の海洋当局によれば、既に 20 隻の艦艇が監視活動を行っている。多くの太平洋諸国にとって、漁業が主たる収入源であることから、これら諸国は不法操業に対する取り締まりを強化している。

9 月 15 日「EU 外相会議、ソマリア海賊対策のための調整組織の設置に合意」(AFP, September 15, 2008)

EU27 カ国は 9 月 15 日、ブリュッセルで外相会議を開催し、ソマリア沿岸沖で多発する海賊事案に対処するため、将来の EU 海軍部隊の派遣も視野に入れて、「調整組織」を設置することに合意した。外相会議は声明で、ソマリア沿岸沖の海賊と船舶に対する武装強盗行為に懸念を表明し、「数日以内に、一部の加盟国がソマリア沿岸沖で実施している監視と護衛活動を支援することを任務とする、『調整組織』をブリュッセルに設置する」ことに合意した。会議はまた、EU の海軍部隊による可能な作戦行動についての戦略的オプションについても承認した。

9 月 15 日「ソマリア海賊、香港船ハイジャック」(Shiptalk, September 16, 2008)

東アフリカ船員支援計画のムワンガラ・ケニア支部長によれば、ソマリアの海賊は 15 日、香港籍船のケミカル・タンカー、MT *STOLT VALOR* (2 万 5,269DWT) をイエメン沖合約 38 カイリの海域でハイジャックした。該船はスエズ運河を出てインドのムンバイに向かっていた。乗組員は、インド人 18 人、フィリピン人 2 人、バングラデシュ人 1 人、及びロシア人 1 人である。乗組員の生命に別状はない。

MT *STOLT VALOR* (2 万 5,269DWT)

Source: Headlinesindia, September 17, 2008

<http://www.headlinesindia.com/defence-news/navy/abduction-of-mt-stolt-valor-by-somalian-pirates-1701.html>

【関連記事】

「海賊、身代金を要求」(The Times of India, September 19, 2008)

19 日付のインド紙、*The Times of India* の報道によれば、ハイジャッカーは、MT *STOLT VALOR* の船主に対して、身代金を要求してきた。船主筋によれば、身代金は 6,000 万ルピー (約 120 万米ドル) である。また同筋によれば、該船に乗り込んでいるハイジャッカーは 15 人で、解放交渉はまだ時間が掛かるという。船員派遣会社、Ebony Ship Management によれば、該船はソマリア東岸のエイルに到着している。

9月16日「インドネシア、海洋の治安維持を強化」(Bernama, September 17, 2008)

インドネシア海軍は、自国とシンガポールやタイを結ぶルートにおける、廃油などの投棄による環境汚染、砂や石材などの密輸、あるいは輸出関係種類の偽造や脱税といった各種の不法活動を取り締まるため、東部及び西部海域における治安維持を強化する。海軍報道官は16日の会見で、海軍の任務は領土保全ばかりでなく、海上における法執行活動を支援することでもある、と強調した。漁業海洋資源省によれば、1月から9月3日までの間に、186隻の外国船が不法操業で拿捕されている。これは2007年1年間の181隻より増えている。

9月17日「ソマリア海賊、香港籍船をハイジャック」(Trade Winds, September 18, 2008)

Sinotrans 海運の香港籍のばら積み船、MV *Great Creation* (2万7,000DWT) は17日、アデン湾沖でソマリアの海賊にハイジャックされた。該船の乗組員は、スリランカ人船長と中国人24人の計25人である。該船は、チュニジアの港からインド北西部のグジャラート州ピパバに向け航行中だった。Sinotrans 海運の広報担当は、該船の船長とは海賊の攻撃中にコンタクトがとれたが、その後はとれておらず、積荷の状況も不明という。

MV *Great Creation* (2万7,000DWT)

Source: Maritime Bulletin – Sovfracht, September 22, 2008
http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=154

9月18日「タイ、マラッカ海峡の合同哨戒活動に参加」(MINDEF, Singapore, News Release, September 18, 2008)

シンガポール国防省の18日の発表によれば、タイは、マラッカ海峡哨戒活動(MSP)に参加する4番目の国となった。タイの参加はバンコクで18日、インドネシア、マレーシア、シンガポール及びタイの国軍司令官が the revised Standard Operating Procedures and Terms of Reference for the Malacca Straits Patrols Joint Coordinating Committee に調印し、正式に決定された。インドネシア、マレーシア及びシンガポールは、2004年7月以来、マラッカ・シンガポール海峡における海洋の安全強化のため、合同哨戒を実施してきた。その後、沿岸3国は、2005年9月から合同空中哨戒活動、the Eyes in the Sky を開始し、2006年にはMSP情報交換委員会を設置した。

9月18日「ソマリア海賊、ギリシャ船をハイジャック」(The Earth Times, September 18, 2008)

ギリシャ海運省によれば、ギリシャのばら積み船、MV *Centauri* (1万2,812DWT、マルタ籍船) が18日、ソマリア南部の沖合で武装海賊にハイジャックされた。該船は、塩を積んでエチオピアか

らケニアに向けて航行中に、5人の武装海賊に襲撃された。該船は、エイルに曳航されていると見られる。クアラルンプールの海賊通報センター（PRC）のノエル・チョーン所長によれば、該船の乗組員は25人で、生命に別状はないという。チョーン所長は、該船はソマリアの首都、モガディシュ沖、約200カイリの海域で襲撃されており、この事案はソマリアの海賊が襲撃海域をアデン湾沖のソマリア北部沖合からソマリア東岸沖合に拡大したことを示している、と語った。

東アフリカ船員支援計画によれば、この2カ月間で、ソマリアの海賊はアデン湾で13隻の船舶をハイジャックし、ソマリア沖での2008年の襲撃事案は55件に達した。現在、200人以上の乗組員が拘束され、16隻が拘留されている。

MV *Centauri* (1万9,556DWT)

Source: Maritime Bulletin – Sovfracht, September 22, 2008
http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=154

9月18日「デンマーク海軍、アデン湾で2隻の高速ボート拿捕」(Shipping Gazette, September 19, 2008)

デンマーク海軍の戦闘艦、HDMS *Absalon* (6,600トン) は18日、アデン湾で2隻の高速ボートを拿捕した。ボートには10人が乗っており、また拳銃、自動火器あるいはロケットランチャーといった、海賊装備が積まれていた。このボートは、HDMS *Absalon* のヘリが発見し、要員がボートに乗り込んで10人を逮捕した。これは、この海域を哨戒する海軍戦闘艦が海賊容疑者を捕らえた最初の事案である。

【関連記事】

「デンマーク、海賊容疑者を釈放」(POLITIKEN.DK, September 24, 2008)

デンマーク海軍は23日、海軍の戦闘艦、HDMS *Absalon* がアデン湾で捕らえた10人の海賊容疑者を6日間艦内に拘留した後、23日から24日未明にかけてソマリアの沿岸で釈放した。釈放に当たって、個人の持ち物は返されたが、武器、通信装備、縄梯子は没収された。釈放は、23日のデンマーク外務省と国防省の協議によって決定された。HDMS *Absalon* は、国連決議に基づく哨戒活動に従事し、また多国籍海軍部隊、CTF-150に参加しているが、海賊容疑者の拘束に関する法的状況は明確ではない。(なお、9月15日から6カ月間は、デンマーク派遣部隊司令官、クリステンセン准将 (Comdr. Per Bigum Christensen) がCTF-150の指揮を執っている。)

これに関連して、デンマークのゲード国防相は24日、デンマーク議会に対して釈放を通告すると

共に、国内法では海賊容疑者を国内法廷で裁く法的手続きが認められていない、と語った。ゲード国防相はまた、公海においてソマリアの海賊を拘束した場合のとるべき措置について、CTF-150の参加国と共に、法的問題を解決し、国際法廷で海賊を裁けるよう、国連に要請していることを明らかにした。国防相は、これはデンマークだけの問題ではない、と強調している。

備考：公海における海賊の逮捕に関しては、国連海洋法条約（UNCLOS）第 105 条に以下の規定がある。

第 105 条 海賊船舶又は海賊航空機の拿捕 「いずれの国も、公海その他いずれの国の管轄権にも服さない場所において、海賊船舶、海賊航空機又は海賊行為によって奪取され、かつ、海賊の支配下にある船舶又は航空機を拿捕し及び当該船舶又は航空機内の人を逮捕し又は財産を押収することができる。拿捕を行った国の裁判所は、科すべき刑罰を決定することができるものとし、また、善意の第三者の権利を尊重することを条件として、当該船舶、航空機又は財産についてとるべき措置を決定することができる。」

9月21日「ソマリア海賊、ギリシャ船をハイジャック」(Shiptalk, September 21, 2008)

ソマリアの海賊は21日、「アフリカの角」海域でギリシャ船をハイジャックした。東アフリカ船員支援計画のムワングラ・ケニア支部長によれば、ハイジャックされたのは、ギリシャの海運会社のバハマ籍船、MV *Capt Stephanos* (7万4,077DWT) で、該船の乗組員はフィリピン人17人、中国人1人及びウクライナ人1人である。

MV *Capt Stephanos* (7万4,077DWT)

Source: Maritime Bulletin – Sovfracht, September 21, 2008
http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=154

9月23日「ロシア、ソマリア海域での海賊対処活動に参加へ」(RIA Novosti, September 23, 2008)

ロシア海軍のヴィョトスキー司令官は23日、ロシアは間もなく、ソマリア海域での国際的な海賊対処活動に参加するが、作戦行動は自国の指揮系統に基づいて実施する、と語った。

【関連記事】

「ロシア海軍戦闘艦、ソマリア海域に向け出港」(Reuters, September 26, 2008)

ロシア海軍報道官は26日、ロシア海軍は戦闘艦1隻を24日、ソマリア海域における定期的哨戒活動のために派遣したことを明らかにした。それによれば、派遣されたのはバルチック艦隊のフリゲート、*Neustrashimy* で、報道官は、派遣目的はロシア人の生命保護と海運の安全確保にある、と語った。

Neustrashimy (満載排水量 4,400 トン)

http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SNz6r0ZNj9I/AAAAAAAAEAQ/7EasuJK6CAg/s1600-h/800px-RFS_Neustrashimy_%28FF_712%29.jpg

9月23日「米海軍補給艦、接近する小型ボートに警告射撃」(U.S. Naval Forces Central Command, Press Release, 116-08, September 24, 2008)

米海軍補給艦、USNS *John Lenthall* (T-AO 189) は23日、接近する2隻の小型ボートに対して、約50ヤード離れた海上に警告射撃を行った。ボートは逃走した。負傷者はなかった。2隻のボートが4万1,000トンの補給艦を襲撃する意図があったがどうかは不明だが、当該海域は海賊事案が多発する海域であったことは明確である。

9月23日「マカッサル海峡の監視用レーダーの設置、一部完成へ」(The Jakarta Post, September 23, 2008)

インドネシアのスダルソノ国防相は23日、船舶航行量の多いカリマンタンとスラウエッシとの間のマカッサル海峡監視用に計画中の7基の監視用レーダーの内、4基が2008年末までに完成する、と語った。この計画は、米国の資金援助を受けて実施されている。インドネシアは既に、マラッカ海峡沿いに同様のレーダー9基を設置している。

9月24日「インド、ソマリア海域に艦艇派遣せず」(Newkerala, September 24, 2008)

インドのアントニー国防相は24日、海賊に拘束されているインド人人質の釈放について、インド政府はソマリア暫定政府と交渉しているとした上で、インドはソマリア海域での哨戒活動には参加しない、と声明した。インド海軍はこれまで、ソマリア海域への哨戒活動への参加と共に、世界食糧計画(WFP)のソマリア支援船の護衛にも意欲を示していた。

9月25日「ソマリア海賊、戦車積載のウクライナ船をハイジャック」(BBC News, September 26, 2008)

ソマリアの海賊は25日、ケニアのモンバサに向かっていた、ウクライナの Tomex Odessa Ukraine 用船のローロー船、MV *Faina* (ベリーズ籍船) をハイジャックした。ウクライナ国防相は、該船には33両のロシア製 T-72 戦車と相当量の弾薬や軍事装備が積載されていたことを確認した。ケニア政府報道官によれば、戦車はケニアに輸出されることになっていた。

該船がどの海域でハイジャックされたかは不明だが、ウクライナ外務省は、該船の船長が25日午

後、武装した海賊が乗った3隻のボートに囲まれたとの報告があったことを明らかにした。ウクライナ外務省によれば、該船の乗組員は、3人のロシア人、17人のウクライナ人及び1人のラトビア人の計21人である。

MV *Faina* (1万931GT)

Source: Maritime Bulletin –SOVFRACHT, September 25, 2008
http://www.odin.tc/eng/news/news_item.asp?NewsID=158

【関連記事 1】

「ケニア政府、身代金の要求なしを確認」(AP, September 27, 2008)

ケニア国防省報道官は27日、ケニア政府はMV *Faina* をハイジャックした海賊と接触をしておらず、身代金の要求もないことを確認した。これは、海賊が3,500万米ドルの身代金を要求しているとの報道に答えたもの。また、同報道官は、該船がアデン湾の公海、ソマリア北東部のプントランド自治区沿岸から200カイリ以上離れた海域でハイジャックされた、と語った。

【関連記事 2】

「米艦、ハイジャック船を取り囲む」(BBC News, September 29, 2008)

米海軍第5艦隊報道官は29日、米海軍駆逐艦、USS *Howard* を含む3隻の戦闘艦がMV *Faina* を取り囲んでいる、と語った。これらの戦闘艦は該船から10カイリ以内の海域にいる。報道官によれば、その内、1隻はロシアの戦闘艦で、もう1隻は明らかになっていない。該船を監視する任務部隊のカード(RADM Kendall Card)司令官は、「我々は該船を厳重に監視しており、交渉が行われている間、監視を続ける。我々の任務は、乗組員の安全を確保すると共に、積荷を荷下ろしさせないで、本来の目的港に向かわせることである」と語った。該船は現在、ホビョウの近くに係留されている。21人の乗組員の内、1人は病気で死亡したと伝えられている。海賊が該船から衛星電話で語ったところによると、海賊は十分な食糧を確保しているという。

【関連記事 3】

「戦車の行き先を巡る謎」(various resources)

MV *Faina* が積載している33両の戦車とその他の軍事装備の行き先は、ケニアではなく、スーダンとの報道がある。米第5艦隊報道官は29日、これらの行き先はケニアではなく、スーダンであるとしたが、スーダンの買い手は不明、と語った。ケニア当局は、買い手は自国であると主張してきた。国連は現在、スーダンの紛争地帯、ダルフールへの武器禁輸措置を実施している。しかし、この禁輸

措置は、スーダン政府や南部の自治地域には及んでいない。(AP, September 29, 2008)

一方、ロシアの Web サイト、*Maritime Bulletin-Sovfracht* の 28 日付の記事は、このハイジャック事案について、以下の指摘をしている。①この事案は事故ではなく、海賊はその積荷とルートを知っていたと信ずべき理由がある。②該船の船長はソマリア沿岸に近接して航行していた。③ウクライナの船主は、積荷とソマリア沿岸の状況を考えれば、海軍艦艇の護衛も付けず、また武装要員を乗船もさせていないという愚行を犯した。(Maritime Bulletin-SOVFRACHT, September 28, 2008)

9月26日「ソマリア海賊、ギリシャのタンカーをハイジャック」(AP, September 27, 2008)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長によれば、ギリシャのケミカル・タンカーが 26 日、アデン湾で海賊に銃撃され、ハイジャックされた。該船の乗組員は 19 人で、ヨーロッパから精製品を積んで中東に向かっていた。ロシアの Web サイト、*Maritime Bulletin-Sovfracht* の 10 月 10 日付記事によれば、ハイジャックされたケミカル・タンカーは、リベリア籍船で、ギリシャ海運会社用船の、MT *Genoios* (1 万 DWT) で、乗組員は全員、ルーマニア人である。

MT *Genoios* (1 万 DWT)

Source: Maritime Bulletin –SOVFRACHT, October 1, 2008
<http://www.odin.tc/GPublisher/articles/1749.asp>

9月27日「ソマリア海賊、エジプト船を解放」(Reuters, September 27, 2008)

エジプト国営通信、*Middle East News Agency* (MENA) が 27 日報じたところによれば、ソマリアの海賊は 3 日にハイジャックしたエジプト船、MV *Al Mansourah* (9,549GT) と 25 人の乗組員を解放した。同通信によれば、海賊は 8 日に身代金を要求してきたという。しかし、要求に応じたかどうかは明らかでない。

9月30日「マレーシアの 2 隻のタンカー、解放」(AFP, September 30, 2008)

ソマリアの海賊は 30 日、身代金と引き替えに、マレーシアの 2 隻のタンカーを解放した。マレーシアの MISC Bhd 所有のケミカル・タンカー、MT *Bunga Melati Dua* は 8 月 19 日にアデン湾で 29 人のマレーシア人と 10 人のフィリピン人の乗組員と共にハイジャックされた。その際、1 人のフィリピン人が海賊の流弾で死亡した。また MT *Bunga Melati Lima* は 8 月 29 日に同じ海域で 36 人のマレーシア人と 5 人のフィリピン人の乗組員と共にハイジャックされた。MISC Bhd によれば、2 隻の

解放に当たって身代金が現金で支払われ、現金の運搬にはマレーシア海軍戦闘艦の支援を得た。2 隻は、マレーシア海軍戦闘艦の護衛でジブチに向かった。

30 日付のマレーシア紙、*the Star* (電子版) によれば、MISC Bhd の最高経営責任者は、2 隻の解放にそれぞれ 200 万米ドルを支払ったという報道について、金額を公表すれば MISC Bhd が狙われるとして、否定することも肯定することも拒否した。

1.2 軍事

9 月 2 日「シンガポール、LST を湾岸に派遣」(Defence Talk, September 2, 2008)

シンガポールは 2 日、揚陸艦 (LST)、RSS *Resolution* をペルシヤ湾岸に派遣した。RSS *Resolution* は 3 カ月間にわたって、沖合の石油ターミナルを防衛すると共に、哨戒・臨検活動を実施し、また同海域の多国籍軍艦艇に兵站支援を行う。シンガポールが湾岸に揚陸艦を派遣するのはこれが 5 回目で、5 機の KC-135 給油機と C-130 輸送機 1 機が同時に派遣された。

9 月 14 日「マラッカ海峡を巡るインド、中国の抗争」(Telegraph, September 14, 2008)

14 日付の英紙、*Telegraph* (電子版) は、マラッカ海峡を巡るインドと中国の抗争について、要旨以下のように報じている。

- ①マラッカ海峡は、中国のアキレス腱と見られる。この中国のエネルギー輸送にとって死活的に重要なシーレーンは将来、インドと中国の抗争の舞台となる可能性がある。中印間の緊張が高まるようなことがあれば、インドは恐らく、この中国の弱点を利用するであろう。インド海軍は、将来的には 3 隻の空母と 2 隻の攻撃型原潜の取得を目指しており、中国の海上輸送を阻止するためにマラッカ海峡を封鎖しようとするであろう。インドは、この中国の弱点を視野に入れて、マラッカ海峡を攻撃可能なアンダマン諸島の都府、ポートブレアに海軍基地を建設した。一方、中国は、ミャンマー領のココ諸島に、モニター施設を備えた軍事施設を保有している。
- ②中国はこの「マラッカ・ジレンマ」を回避するために、マラッカ海峡を迂回することを目指している。インドの西方では、中国は、パキスタンのグワダルに港を建設している。グワダルは将来的には、中国海軍の戦闘艦の基地となる可能性がある。またグワダルは、パイプラインで中国にエネルギーを輸送するための出発点となるかもしれない。そうなれば、中国はマラッカ海峡を迂回できることになる。同様にインドの東方でも、ミャンマー領のラムリー島に新港とパイプライン・ターミナルが建設中であり、ここから雲南省の省都、昆明まで 900 マイルのパイプラインで直接、石油・天然ガスを輸送できる。
- ③前インド陸軍大学校長のカプール (Vijay Kapoor) 退役将官は、「インド洋は我々の優位を最大限活用できる戦域であり、中国を締め上げる唯一の方法は海軍力を利用することである。中国はこのことを承知しており、そのために中国がこうした港湾を利用しようとしている。その狙いは、インドが中国を締め上げることを阻止することにある」と語っている。パキスタンとミャンマーにおける中国の計画は、インドを「包囲する」戦略とも見られる。もし将来、中国海軍がインド洋に恒久的な基地を確保することになれば、インドと中国の緊張は高まって行くであろう。

9月15日「中国、空母艦載機のパイロット訓練開始」(Jane's Defence Weekly, September 15, 2008)

15日付の英誌、*Jane's Defence Weekly* (電子版) は、中国海軍が空母艦載機のパイロット訓練を開始したとして、要旨以下のように報じている。

- ①中国海軍は、空母から固定翼機を運用できる中国初の戦闘機パイロットを養成するために、大連にある海軍アカデミー (the Chinese People's Liberation Army Dalian Naval Academy: DNA) で、50人の学生に対する訓練計画を開始した。中国メディアは、この計画を、「新時代における戦略的変革を実現するための海軍による重要な決定」と評した。訓練計画の大部分はDNAのAutomation Engineering部の教授団が行うが、海軍のその他の機関や飛行学校も計画に参加する。学生は、4年間の訓練中、座学として、エンジニアリング、シーマンシップ及び飛行システムに関する理論などについて学ぶ。その後、まず陸上での飛行訓練、そして最終的には洋上での飛行訓練を受講する。
- ②また、中国海軍は20年以上も前から、空母保有という長年の望みを実現するために、将来の空母運用要員を選抜し、訓練してきた。中国海軍は1987年、海軍パイロットを空母艦長に任命する米海軍の慣行にならって、広州海軍アカデミーに「パイロット戦闘艦艦長」コースを開設し、パイロットを艦長要員として訓練してきた。既に9人の海軍パイロットがこの3年課程を修了し、現在は全員が駆逐艦の艦長となっている。彼らは2010年までに40代後半に達し、空母の理想的な艦長候補になろう。
- ③中国造船業界の消息筋によれば、中国海軍は、大連造船所に係留されている旧ソ連の空母、*Varyag* を訓練用に改装することを計画しているという。もし中国海軍が推進システムや発着艦システムを含む技術的難題を解決できれば、*Varyag* は、2020年頃と予想される最初の稼働空母が導入されるまで、洋上飛行訓練用プラットフォームとして活用できよう。
- ④中国海軍が直面するもう1つの難題は、適当な艦載機がないことである。第3世代の国産機、J-10、J-11は、艦載機として運用するためには、機体構造を大幅に改良する必要がある。

9月22日「ロシア海軍、南米に戦闘艦派遣」(AP, September 22, 2008)

ロシアは22日、北洋艦隊の原子力巡洋艦、*The Peter the Great* を旗艦として、他の3隻の戦闘艦と共に、西半球に派遣した。ロシア海軍報道官によれば、派遣艦隊は、ベネズエラ海軍と合同訓練を実施することになっている。

The *Peter the Great* (満載排水量2万6,500トン)

Source: AP, September 22, 2008

<http://ap.google.com/article/ALeqM5iHvE2zvWkZUbF3qqvLMu7g5-H2XQD93BO93O0>

9月25日「米空母、GW、横須賀入港」(Navy News Stand, September 25, 2008)

米原子力空母、USS *George Washington* (CVN 73) は25日、米海軍横須賀基地に入港した。原子力空母の米本土以外への配備は初めてである。ウインター米海軍長官は式典で、*GW*の配備を日米同盟にとって重要な出来事と位置付け、「米第7艦隊は、日本を防衛する共に、域内の戦争抑止に貢献している。第7艦隊への*GW*の配備は、我々の日米同盟に対するコミットメントを誇示するものである」と強調した。

9月29日「ロシア軍、極東地区で軍事演習開始」(RIA Novosti, September 29, 2008)

ロシア軍は29日、極東地区で軍事演習、*Stability-2008*を開始した。演習は10月21日まで行われる。29日から10月5日までの*Bereg* (沿岸) 演習では、サハリンとクリル諸島のインフラをテロ攻撃から防衛すると共に、航行の安全確保や自然災害、産業災害などを想定して、統合任務部隊の展開が演練される。また10月21日までの演習では、ロシアとベラルーシ各地で、ロシア国境に対する潜在的な脅威に対処することを狙いとして、戦略核戦力を含む、ロシア軍の戦略的展開が演練される。

9月30日「ロシア潜水艦、北極の氷海経由で太平洋まで潜航」(RIA Novosti, September 30, 2008)

ロシア海軍報道官は30日、*Delta III*級弾道ミサイル原潜 (SSBN) が130人の乗組員と共に、ロシア北部から北極海の氷海を経由して太平洋までの30日間の潜航に成功し、カムチャツカ半島の基地に到着した、と発表した。同報道官は、これによって北極圏でのロシア海軍の戦略任務遂行能力が確認された、と語った。この*Delta III*級SSBNはこれまで北洋艦隊に所属していた*Ryazan*で、同級の10隻と太平洋艦隊で合流する。

1.3 外交・国際関係

9月1日「シンガポール・マレーシア両国、国際司法裁判所の判決履行を再確認」(Bernama, September 2, 2008)

シンガポール、マレーシア両国は1日に発表された両国外相共同声明で、係争中であった3つの岩礁についての国際司法裁判所の判決履行を再確認した。声明によれば、8月20日に開催された両国外務次官を長とする合同技術委員会 (MSJTC) で、合同調査小委員会の作業が再検討され、水路調査のための技術的準備を整えるために、小委員会による今後数週間の討議継続が合意された。また、海洋・航空管制及び漁業小委員会 (a Sub-Committee on Maritime & Airspace Management and Fisheries) の設置も合意された。MSJTCは、両国による伝統的な漁業活動が3つの岩礁からそれぞれ0.5カイリを超えた海域で継続して実施されることに合意した。(国際司法裁判所の判決とその後の両国の動きについては、OPRF 海洋安全保障月報2008年5月、6月号1. 3 外交参照)

9月3日「イラン、ホルムズ海峡の係争島嶼に管理事務所設置」(BBC News, September 3, 2008)

ペルシャ湾岸6カ国で構成する湾岸協力会議 (GCC) は3日、声明を発表し、イランがホルムズ海峡の島嶼に管理事務所を設置したことを非難した。Abu Musa、Greater Tunb 及び Lesser Tunb の3つの島嶼はイランが占有しているが、アラブ首長国連邦 (UAE) が領有権を主張しており、他のアラ

ブ諸国から広範な支持を得ている（地図参照）。イランは、Abu Musa に設置した 2 カ所の管理事務所は船舶の登録と海難救助のためであるとし、GCC の声明を内政干渉であると指摘した。GCC は、こうしたイランの措置がホルムズ海峡を通航する船舶に対するイランの統制力を強めることを懸念している。GCC の声明は、「GCC 閣僚会議は、イランが Abu Musa に 2 カ所の管理事務所を設置したことを非難し、こうした違法な施設を撤去すると共に、UAE の領土主権を尊重することを要求」した。イランは、英国が湾岸の首長国の独立を承認した 1971 年に、これらの島嶼を占有した。UAE は繰り返し領有権問題を直接交渉か仲裁による解決を求めてきたが、イランは拒否してきた。

Source: BBC News, September 3, 2008

9 月 15 日「バングラデシュ・インド、海洋境界画定交渉再開」(The Daily Star, September 16, and News Today, September 18, 2008)

バングラデシュとインドは 15 日、28 年ぶりに海洋境界画定交渉を再開した。主たる問題は、海洋境界画定の出発点として、両国の南西国境を流れる Hariabhanga 川の主流を判定することである。主流の判定は、河口の低潮高地である South Talpatty 島（インドでは、Purbasha あるいは New Moor 島という）の帰属を巡る数十年來の両国間の紛争と一体をなしている。バングラデシュは、主流は同島の西側を流れていると主張してきた。一方、インドは、東側を主張してきた。（地図参照）両国の交渉は 17 日、双方とも自国の主張を譲らず、成果なく終了した。

http://en.wikipedia.org/wiki/Image:South_Talpatti_Island.jpg


 ホット・トピック
 

「国連大陸棚限界委員会」、大陸棚限界の延伸をニュージーランドに勧告

国連海洋法条約（UNCLOS）第 76 条は、沿岸国の領海の基線から 200 カイリまでの海底を大陸棚とすると共に、大陸棚の縁辺部が 200 カイリを超えて延びている場合、200 カイリを超えて最大 350 カイリまで、又は 2,500 メートル等深線から 100 カイリまでのいずれか遠い方まで、大陸棚の限界を延伸できると規定している（備考参照）。そして沿岸国が 200 カイリを超える大陸棚を設定しようとする場合は、200 カイリを超える大陸棚に関する情報を「国連大陸棚限界委員会」（The UN Commission on the Limits of the Continental Shelf: CLCS）に提出しなければならない。UNCLOS 付属書Ⅱ「大陸棚限界委員会」第 4 条では、大陸棚の外側限界について 200 カイリを超えて延伸する意志を有する沿岸国は、延伸申請文書を、当該限界延伸についての詳細を裏付ける科学的、技術的データを添付して、委員会に提出しなければならない、としている。CLCS は、沿岸国が提出した情報を検討し勧告を行う。沿岸国がその勧告に基づいて設定した大陸棚の限界は、最終的なものとし、かつ、拘束力を有することになる。1999 年 5 月 13 日より前に UNCLOS 締約国となっている国については、当該期日より 10 年間で提出期限とされており、2009 年 5 月 12 日までに申請文書を提出しなければならない（UNCLOS 締約国会合の決定による）。1999 年 5 月 13 日以降に UNCLOS 締約国となった国については、UNCLOS 付属書Ⅱ第 4 条で、「自国について効力を生じた後できる限り速やかに、如何なる場合も 10 年以内に」という規定が適用される。ニュージーランドは 2006 年 4 月に CLCS に大陸棚外側限界の延伸申請を提出していた。CLCS は 9 月 22 日に、ニュージーランドに対して延伸勧告を行った。

以下は、ニュージーランド政府の資料から同国の大陸棚外側限界の延伸の概要を取り纏めたものである。なお、ニュージーランドと海洋境界を接するオーストラリアに対しては、CLCS は 2008 年 4 月 9 日に延伸を勧告した。（OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 4 月号 1.3 ホット・トピック参照。）

なお、ニュージーランド、オーストラリア以外に、これまで以下の延長申請が提出されている。ロシア（2001 年）、ブラジル（2004 年）、アイルランド（2005 年）、仏・アイルランド・スペイン・英国合同申請（ケルト海・ビスケー湾）（2006 年）、ノルウェー（2006 年）、フランス（仏領ギアナ、ニューカレドニア）（2007 年）、メキシコ（2007 年）、バルバドス（2008 年）、英国（大西洋アセンション島）（2008 年）。（各申請内容については、CLCS の HP 参照。http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/clcs_home.htm）

1. クラーク・ニュージーランド首相の会見

ニュージーランドのクラーク首相は 9 月 22 日の会見で、ニュージーランドが約 170 万平方キロに及ぶ海域に主権的権利を行使できることが、同日の CLCS の会議で確認された、と発表した。クラーク首相は会見で以下の諸点を強調した。

- ①ニュージーランドの科学者や政府当局者の 10 年以上に及ぶ努力の結果、CLCS に大陸棚外側限界の延伸申請を行うことができた。これは 4,400 万 NZ ドルのプロジェクトの成果であり、大陸棚延伸の確認のために、各種の調査が実施された。
- ②ニュージーランドの大陸棚は 200 カイリの EEZ を超えて伸びており、CLCS によって確認された海域の面積は、ニュージーランド陸地の 6 倍以上の広さである（地図 1 参照）。

- ③21人のメンバーからなる CLCS は、ニュージーランドの延伸申請を2年以上にわたって審査してきた。CLCS 委員の好意的コメントを引き出した、ニュージーランドの徹底したアプローチは、延伸申請の承認を求める他国のモデルとなろう。
- ④ニュージーランドは、CLCS の勧告を基に、大陸棚外側境界を画定する。確定に当たっては、ニュージーランドの北側の大陸棚と接する、フィジー及びトンガと交渉することになる。オーストラリアとは2004年7月に、大陸棚の境界について合意に達している(地図2参照)。(NZ Government Prime Minister's Media Release, September 22, 2008)
- なお、ニュージーランドの大陸棚延伸申請プロジェクトの主務官庁は Land Information NZ で、プロジェクトの内容は以下に詳しい。[New Zealand Continental Shelf Project](#)

2. ニュージーランド大陸棚の延伸海域と隣接海域の境界問題

CLCS が確認したニュージーランド大陸棚の延伸海域は、別紙の地図1に示す通りである。

ニュージーランドの隣接海域の境界については、オーストラリアとの間では2004年7月、海洋境界を画定する条約、” the Treaty between the Government of Australia and the Government of New Zealand establishing certain Exclusive Economic Zone and Continental Shelf Boundaries” が調印されている。

この条約は、タスマン海と南西太平洋の隣接海域の境界を画定するものである。オーストラリアは2004年11月に、ニュージーランドは2006年4月に、それぞれ CLCS に大陸棚外側限界の延伸申請を提出したが、それに先立って、重複する海域の境界を画定する必要があった。別紙の地図2に示されるように、境界は、両国によって20年以上にわたって事実上の境界と見なされてきた、重複する EEZ の中間線に引かれた。

この条約は、地図2に示すように2カ所の海域の境界を定めている。1つは北部海域で、ロードハウ海膨、同島の一部海域、及びノフォーク島からスリー・キングス海嶺に伸びる海域における両国の EEZ と大陸棚の境界である。もう1つは南部海域で、オーストラリア領のマッコリー島とキャンベル諸島、オークランド諸島の間、両国の EEZ と大陸棚の境界である。

なお、ニュージーランドは、隣接するフィジーとトンガとの境界は未確定である。

備考：国連海洋法条約 (UNCLOS) による「大陸棚の定義」及び「大陸棚の限界の概念」は以下を参照されたし。古賀衛「大陸棚延伸問題の背景」『海洋政策研究財団ニューズレター』第192号、2008.08.05.

http://www.sof.or.jp/news/151-200/192_2.php

別紙

地図 1 : ニュージーランド大陸棚の延伸海域

地図注 1 : 赤線は、EEZ を越えて大陸棚外側限界を延伸できる海域を示す。黒線は、ニュージーランドの EEZ を示す。グレイの線は他国の EEZ である。黄色の線はオーストラリアとの 2004 年 7 月の境界条約に基づく境界を示す。地図 2 参照。

[New Zealand-Australia Delimitation Treaty](#)

地図注 2 : ニュージーランドの EEZ は 40 万平方キロ。大陸棚外側限界は 170 万平方キロ。

Source: Land Information NZ

<http://www.linz.govt.nz/hydro/projects-programmes/continental-shelf/undersea-image/index.aspx>

地図 2 : ニュージーランドとオーストラリア間の海峡境界

Source: Land Information NZ

<http://www.linz.govt.nz/hydro/projects-programmes/continental-shelf/boundary-map/index.aspx>

1.4 海運・資源・環境・その他

9月4日「インド政府、見習い船員不足の海運会社に科料」(Shiptalk, September 4, 2008)

インド政府は2007年12月、インドの全海運会社に対して、各船舶乗組員の少なくとも15%の見習い船員を乗せるよう指示した。しかしながら、この指示はほとんど遵守されていないことから、インド政府は、基準を満たしていない船舶に罰金を科すことにした。罰金額は最終的に決まっていないが、この基準を満たさない海運会社は、1隻当たり最大200万ルピーの罰金を支払うことになる。政府は、海運会社に対して、インドの船員学校から見習い船員を雇用するために、トン税による利益を当てることを義務づけている。インドの海運会社はトン税制度(TTR)の下で、通常30%の法人税に対して、わずか5%の税金しか払っていない。TTRの恩恵を受けるには、海運会社は、2つの条件、即ち利益の20%を船腹量の拡大に投資すると共に、各船舶乗組員の15%の見習い船員を乗せなければならない。後者の要件を満たしていない、50社以上の海運会社は、法人税の支払いを避けるために、罰金を支払うことを望んでいる。

9月22日「増大する英国籍船」(The Maritime & Coastguard Agency, Press Notice No. 313/08, September 22, 2008)

英国の海洋沿岸警備局(the Maritime & Coastguard Agency: MCA)のプレス発表によれば、英国籍船の増大が続いている。それによれば、2008年年初以来の登録隻数は56隻で、船腹量は100万GTを超えた。最新の登録船は、9月5日に登録された、Stena Drilling社の新造石油掘削船、*Stena Carron* (5万8,294GT)である。同社の石油掘削船の内、英国籍船は4隻、船腹量14万3,856GTとなった。この登録で、英国籍船は船腹量1,496万GT、1,537隻となった。

Stena Drilling社は、アバディーンに本拠を置く、世界的な独立系掘削会社の1つで、北海、メキシコ湾、東南アジア、地中海、カリブ海、北アフリカ、西アフリカ及びオーストラリアで実績を上げている。アバディーンは、欧州の海洋エネルギー産業の中心地で、この2年間、深海掘削船、油井支援船、プラットフォーム支援船、アンカー・ハンドラー及びプラットフォーム待機船など、40隻以上の新造船がMCAのアバディーン海洋事務所で登録された。海洋石油関連船舶産業の活況で、2012年までに世界の造船業界に記録的な隻数の関係船舶が発注されている。従って、英国籍船が更に増えると思われる。

The *Stena Carron* unit is designed to drill in up to 10,000ft of water,
under zero discharge conditions.

Source: Stena Drilling HP
<http://www.stena-drilling.com/sub.asp?m=drilling&p=carron>

9月25日「トルコの造船会社、新型ダブルハル設計ばら積み船のデザイン公表」(Maritime Global Net, September 25, 2008)

トルコの造船会社、Cicek Shipyard は、9月23-26日にハンブルグで開催された、SMM 2008 (shipbuilding, machinery & marine technology trade fair) で、新型の2万5,000DWT級ばら積み船のデザインを公表した。同社によれば、新型のダブルハル設計は、現在及び将来の環境基準と安全基準を満たすもので、特に新たな「共通構造規則」(Common Structural Rules:CSR) を満たすと共に、新たな「パフォーマンス標準保護コーティング」(Performance Standard for Protective Coatings: PSPC) に準拠し、船体の安全性の強化と腐食の防止によるライフサイクルの延長を企図している。乗組員は22人、巡航速度13ノットが見込まれている。同社は、このクラスの現有ばら積み船が老朽化しつつあり、エンジンも15~20年前の製造で、運航コストに苦しんでいることから、多くの船主からの受注を期待している。

Source: Cicek Shipyard HP
<http://www.cicekshipyard.com/ReferenceShow.asp?ID=70>

9月29日「韓国・ロシア、北朝鮮経由のパイプライン敷設に合意」(Yonhap News, September 29, 2008)

ロシア訪問中の韓国の李明博大統領は29日、メドベージェフ大統領と会談し、両国間のエネルギー、資源及び工業技術などの分野で2国間協力を促進することで合意した。そして韓国の Korea Gas Corp.とロシアの Gazprom は、ウラジオストクから北朝鮮経由で韓国までのパイプラインを敷設する協定に調印した。このパイプラインは、2015年までの完成を予定しており、完成後は韓国の年間需要の20%に当たる年間750万トンの天然ガスの輸送が期待されている。この計画に対する北朝鮮の態度は不明である。

この会談で、両国はまた、北朝鮮国境に近いロシアのポシェット (Posiet) に韓国専用の貿易港を建設することに合意した。李明博大統領は、「ここは水深が深く、環境条件がよい。韓国は、この港を排他的に使用することで、まずポシェットに物資を輸送し、ここから鉄道でロシア国内やヨーロッパにまで輸送することができる」と期待している。(この項は、JoongAng Ilbo, October 1, 2008による。)

2. 情報分析

ソマリアの海賊事案に対する各国、機関の対応

ソマリアの海賊によるアデン湾海域やソマリア沿岸海域での襲撃事案が、依然として猖獗を極めていく。国連安保理は6月2日、ソマリアの海賊事案に対処するために、この海域に展開する外国艦艇に「必要なあらゆる措置」を授権する、安保理決議第1816を全会一致で採択した。しかしながら、現在までのところ、この決議も大きな抑止力とはなっていない。この決議以降も、8月、9月は海賊の襲撃事案が多発し、多くの船舶がハイジャックされ、10月16日現在、200人近い各国の船員が人質となっている。

アデン湾海域はスエズ運河に至る紅海の入出力にあり、年間1万6,000隻余の船舶が通航する海域で、マラッカ海峡と共に、世界でも最も重要なシーレーンの1つである。この海域における海賊襲撃事案の多発は、世界の海運に重大な影響を及ぼしつつある。

以下は、海外の報道や論説などから、ソマリアの海賊襲撃事案に対する各国、機関の対応などを取り纏めたものである。別紙に、6月2日の安保理決議から10月16日までのアデン湾海域やソマリア沿岸海域におけるハイジャック事案の状況を表に纏めた。

1. 国連の対応

国連安保理は、ソマリアの海賊問題について、6月2日と10月7日の2度にわたって全会一致で決議を採択した。

6月2日の安保理決議第1816は、ソマリア沖の公海で海軍艦艇と軍用機を展開させている加盟国に対して、12月1日までの6カ月間、ソマリア領海内までの追跡権を含む、「必要なあらゆる措置」を授権する、画期的なものであった¹。この決議によって、この海域における海賊襲撃事案に対する一定の抑止力が期待されたが、その後の情勢はそうした期待を裏切るものであった。別紙に見るように、船舶をハイジャックし、人質を盾に身代金を奪うという、ソマリアの海賊事案の特徴から見れば、外国艦艇が軍事行動に踏み切ることができるのは、人質の安全が確信できる場合のみであろう。

その後のハイジャック事案の多発を受けて、国連安保理は10月7日、決議第1838を全会一致で採択した²。この決議は、その前文で、①海賊襲撃事案がソマリアに対する迅速かつ安全で効果的な人道支援の提供を脅かすと共に、この海域の通商ルートの脅威になっている、②ソマリア沖の広範な海域における海賊の襲撃が、重火器や母船を利用するなど、ますます暴力的になってきていることに懸念を表明している。

今回の決議の特徴は、海賊襲撃事案の根絶のためには、何よりもソマリア国内における平和と安定、国家機関の強化や法の支配の確立が必要であることを強調していることにある。そのための対策として、決議は、加盟国や地域機構に対して、国連世界食糧計画(WFP)によるソマリアへの人道支援物

¹ この決議については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2008年6月号 2. 1 参照。決議1816は以下のURLを参照；
<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N08/361/77/PDF/N0836177.pdf?OpenElement>

² 決議1838は以下のURLを参照；
<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N08/538/84/PDF/N0853884.pdf?OpenElement>

資の海上輸送を護衛することを求めている³。

同時に、決議第 1838 は、海賊の跳梁跋扈がソマリア国内の情勢を一層悪化させるとの認識から、海賊襲撃事案そのものに対する対応として、海洋の安全に関心を持つ加盟国に対して、国連憲章第 7 章の下に、①特に海軍艦艇や軍用機を展開させることで、ソマリア領海及び同国沖の公海上における海賊行為に対する戦いに積極的に参加すること、②同国沖公海上及びその上空に海軍艦艇や軍用機を展開させている加盟国に対して、国際法規に準拠し、必要な措置を取ることを求めている。その際、決議は、ソマリア暫定政府 (TFG) と協力することを求めている⁴。

そして、この決議は、決議第 1816 で加盟国に授権した権限を、当初の 6 カ月間から延長する意図があることを明記している。IMB は、2008 年上半期の海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書で、安保理決議が規定する 6 カ月の期間中、海賊事案がほとんどない 2 カ月間のモンスーン期が含まれており、実質的な有効期間は 4 カ月間に過ぎない、と指摘していた⁵。従って、今後年末にかけてソマリア沿岸海域はモンスーン期に入るが、依然として多くの船舶が拘束されている現在の状況から見れば、この権限は延長される可能性が十分考えられる。

2. 各国の対応

(1) 米海軍第 5 艦隊と合同任務部隊、CTF-150 による安全海域の哨戒

米中央軍海軍部隊である第 5 艦隊 (司令部：バーレーンのマナマ) は、アデン湾、紅海、オマーン湾及びインド洋東部にまたがる約 750 万平方キロの海域を管轄海域としている。この海域で、第 5 艦隊は、対テロ活動に参加する連合海軍部隊(Combined Maritime Forces: CMF)と共に、アフガニスタンにおける「不朽の自由」作戦に伴って、海上からのテロリストや武器の流入を阻止するために、合同任務部隊、CTF-150 を編成し、第 5 艦隊の管轄海域において海上阻止行動(Maritime Security Operations: MSO) を実施している。

CTF-150 には、米国、デンマーク、フランス、ドイツ、オランダ、パキスタン、英国及びカナダなどの各国海軍の 15 隻前後の艦艇によって構成されている。その指揮は参加各国が約半年のローテーションで受け持っており、9 月からはデンマーク派遣艦隊の司令官が指揮を執っている。海上自衛隊の補給支援は、CTF-150 の艦艇を対象としている。

米中央軍海軍司令部は、8 月 22 日にアデン湾海域のイエメンからオマーンにかけての海域に、海洋安全哨戒海域 (a Maritime Security Patrol Area: MSPA) ⁶を設置した。米中央軍海軍司令部は、アデン湾を航行する船舶に対して、指定された「回廊」を利用することを慫慂している。CTF-150 は、この「回廊」の哨戒活動を行っている。

この海域に展開する米海軍を始め各国海軍戦闘艦は、この海域の最近の状況から、海賊対策にも力を入れてきている。しかしながら、CTF-150 は本来、海賊対策が主任務ではなく、この回廊を航行する船舶に対して 100%の安全が保証されているわけではない。米第 5 艦隊司令官のゴートニー司令官

³ WFP のケニアからソマリアへの食糧輸送船に対する護衛任務は、2007 年 11 月にフランスが戦闘艦を派遣して以来、オランダに引き継がれ、現在はカナダ海軍が担当している。カナダは、護衛任務を、9 月 23 日の期限切れ後も、10 月 23 日まで延期することを決定している。(Canadian Press, September 25, 2008) オランダ政府は、2 度目の護衛任務にフリゲートの派遣を決めており、10 月末までにソマリア海域に到着することになっている。(Radio Netherlands, October 8, 2008)

⁴ 日本政府は、全土を実効支配する統一政府は存在しないとの立場から、ソマリア暫定政府 (TFG) を承認していない。

⁵ OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 7 月号 2.分析参照。

⁶ OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 8 月号 1.1 治安参照。

は9月22日、海運業界に対して、ソマリア海域における海賊から商船を防衛するに当たって、米海軍に依存する以上に自らの責任を自覚すべきである、と警告している。同司令官は、アデン湾海域を哨戒する米海軍主導の合同任務部隊は、ソマリアとイエメンの間の危険海域を1日当たり数百隻も航行する商船を24時間態勢で護衛する程の戦力を持っているわけではない、と述べている。(AP, September 23, 2008)

(2) EU、NATO

EU27カ国は9月15日、ブリュッセルで外相会議を開催し、ソマリア沿岸沖で多発する海賊事案に対処するため、将来のEU海軍部隊の派遣も視野に入れて、「調整組織」を設置することに合意した。外相会議は声明で、ソマリア沿岸沖の海賊と船舶に対する武装強盗行為に懸念を表明し、「数日以内に、一部の加盟国がソマリア沿岸沖で実施している監視と護衛活動を支援することを任務とする、『調整組織』をブリュッセルに設置する」ことに合意した。(AFP, September 15, 2008)

これに関連して、スペインは9月20日、ソマリア沿岸海域を哨戒するために、海軍のP-3 Orion哨戒機を派遣した。Boeing 727とHerculesヘリ各1機が随伴しており、派遣人員は90人である。哨戒活動は3カ月を予定しており、EUの調整組織のために、海賊情報を収集することになっている。(Reuters, September 20, 2008)

フランスのモリン国防相によれば、EU国防相会議は10月1日、ソマリア沖で哨戒活動を行うことに合意した⁷。この哨戒活動は、年内に開始される計画である。(BBC News, October 2, 2008) EUが10月16日に発表したところによれば、EU部隊は、ベルギー、キプロス、フランス、ドイツ、リトアニア、オランダ、スペイン各国の艦艇に加えて、英国の艦艇も参加すると見られる。(Hot News Turkey.com, October 16, 2008)

一方、NATO国防相会議は10月9日、NATO常設海軍海洋グループ(Standing Naval Maritime Group)をソマリア海域に派遣することを決定した。NATO報道官によれば、常設海軍海洋グループは2週間以内に派遣され、国連の要請に応じてWFPの食糧支援船を護衛すると共に、ソマリア周辺海域の哨戒活動を実施する。(American Forces Press Service, October 9, 2008)

NATO艦隊は、イタリア海軍の駆逐艦、ドイツ海軍のフリゲートと補給艦、ギリシャ、トルコ及び英国海軍のフリゲート、そして米国海軍の駆逐艦から構成される。NATO艦隊は、既にこの海域で活動している米国主導のCTF-150、そして12月に派遣されるEU部隊と協同で活動することになる。(Reuters, October 15, 2008)

(3) ロシア

ロシア海軍は9月24日、バルチック艦隊のフリゲート、*Neustrashimy*を、ソマリア海域における定期的哨戒活動のために派遣した。ロシア海軍によれば、派遣目的は、ロシア人の生命保護と海運の安全確保である。(Reuters, September 26, 2008) ロシアのラブロフ外相は10月3日、海賊対処に当たっては、米国やEU諸国と調整しながら遂行すると語った。*Neustrashimy*には海兵隊と特殊部隊が乗艦しているが、ロシア海軍は、9月25日にハイジャックされたウクライナ船、*Faina*の乗組員

⁷ 欧州では、フランスが海賊対策において最も強固な態度を取っている。フランスは、2007年にWFPのケニアからソマリアへの食糧輸送船に対する護衛任務に初めて戦闘艦を派遣し、他国に対して同様の措置を取るよう呼びかけた。2008年6月2日の国連安保理決議第1816を主導したのもフランスである。また、海賊に拘束された人質を取り返すために、武力行使をしたのはフランスのみである。フランスの特殊部隊は4月11日、ハイジャックされた(4月4日)豪華ヨットと乗組員を解放した。その際、6人の海賊を逮捕し、現在フランス国内で起訴、裁判中である。フランスの特殊部隊は9月15日にも、ハイジャックされた(9月3日)ヨットを急襲し、人質を解放した。この戦闘で海賊1人が死亡し、6人が拘束された。

解放のために武力を行使する可能性については言及していない。(The Moscow Times, October 6, 2008)

英国のシンクタンク、the Chatham House のフェドロフ (Yuri Fedorov) ロシア軍事問題専門家は、ロシアが海軍戦闘艦を派遣する背景について、以下の2点を指摘している。①ロシアは、世界全域にわたって積極的な活動を展開する十分な政治的、財政的及び軍事的な余裕を持っていることを誇示する。②ロシアは、侵略者であるばかりでなく(引用者注: グルジア問題を指す)、海賊対策やその他の国際問題にも関与していく意志を誇示する。(Lloyd's List, September 23, 2008)

(4) インド

インドは10月16日、アデン湾海域の哨戒とインド籍船を護衛するために、海軍戦闘艦を派遣することを決定した。国防省報道官は、「政府は、オマーンのサララとイエメンのアデン間のインド籍船の通常航路を哨戒させるために、アデン湾海域に海軍戦闘艦を直ちに派遣することを承認した」と発表した。(rediff news, October 16, 2008)

インドの決定は、8月15日にハイジャックされた日本の海運会社関係船、MV *Stolt Valor* の解放について、10月16日に48時間以内の身代金要求の最後通告が期限切れとなり、緊迫した状況にあると報じられた(Maritime Global Net, October 16, 2008) 状況下で行われた。該船の乗組員22人の内、18人がインド人である。

派遣されたインド海軍のフリゲートには、ヘリと海兵コマンドゥ部隊が乗艦している。海軍当局者は、この派遣によってインドの対海賊戦略が始動することになるが、政府は海軍に「追跡権」の行使を認めないであろうと述べた。海軍当局者によれば、「追跡権」はケースバイケースで、国防、外務、法務及び海運各省の協議の後、初めて行使されることになろうという。(Telegraph UK.com, October 17, 2008)

(5) マレーシア

マレーシアは、マレーシア籍船の2隻のタンカー、MT *Bunga Melati Dua* と MT *Bunga Melati Lima* が8月にハイジャックされたことを契機に、アデン湾を航行するマレーシアの船舶を護衛するため、海軍の3隻の戦闘艦を9月初めに派遣した。(The Star, September 5, 2008)

マレーシア国防省報道官は、派遣戦闘艦のプレゼンスが9月末の2隻の解放に重要な役割を果たしたと述べた。さらに同報道官は、今回の派遣が本国から約7,000キロも離れた海域での初めてのMOOTW(戦争以外の軍事行動)であったことを指摘し、「我々は今や、海洋危機管理能力を誇示することによって、フランス、カナダ、デンマーク、ドイツ、英国、スペイン及び米国と合同で行動できる」と述べ、その成果を誇った。同報道官によれば、派遣戦闘艦の内、2隻は解放された2隻のタンカーを護衛して帰国するが、1隻はアデン湾海域に留まるという。(New Straits Times, October 6, 2008)

(6) フィリピン

フィリピン外務省は9月19日、フィリピン人船員の派遣会社に対して、アフリカ海域での海賊被害からの基本的な防衛措置として、以下の事項に従うよう指示した。①アフリカ海域では設定されている「安全回廊」から離れて航行すべきではない。②アデン湾の狭い海峡を航行する際は、全ての船舶は船団を組んで航行する。また外務省は、国連安保理が海賊対策として外国海軍艦艇に哨戒活動を認めた海域において、米国、欧州諸国、カナダ及びパキスタンの連合海軍部隊に哨戒活動を強化するよう要請している。(GMA News. TV, September 19, 2008)

フィリピン人船員は、世界の船員需要の3分の1を占め、約27万人に及ぶ。10月初め現在、80

人以上のフィリピン人船員がソマリアの海賊に拘束されている。フィリピン政府は、自国船員の解放を求めて海賊とは直接交渉していないが、ソマリア暫定政府や海運会社との調整を続けている。(Shiptalk, October 1, 2008)

(7) 韓国

韓国の柳明桓外交通商部長官が10月7日に明らかにしたところによれば、韓国は、自国の漁船と商船を海賊被害から護るために、ソマリア海域に海軍戦闘艦を派遣することについて、関係省庁と協議しているという。消息筋によれば、2003年に就役した、イ・スンシン(李舜臣)級駆逐艦(満載排水量4,800トン)の派遣が提案されているという。しかしながら、国防부는、補給上の問題などを理由に、慎重な姿勢といわれる。国防筋は、何も決まっていなとし、「この問題は多方面からの検討が必要で、現在は多くの選択肢の1つとして、基本的な協議が行われているに過ぎない」と語っている。(Yonhap News, October 7, 2008)

3. 海運業界の対応

(1) 国際海運会議所(International Chamber of Shipping: ICS)と国際海運連盟(International Shipping Federation: ISF)は9月28日のプレスリリース⁸で、各国政府に対して、以下の2点を要請している。

- ①各国政府は、安保理決議第1816と公海における海賊の取り締まりに関する既存の国際法に準拠して、海軍部隊が暴力的な海賊行為と外洋における海賊の「母船」に対して適切な行動をとれるようにするために、明確な交戦規定(rules of engagement)を提示すること。
- ②各国政府は、海賊を法廷で裁き、海賊行為を繰り返させないようにすること。

ICSは、国際海事機関(IMO)の海洋環境保護委員会でも、海運業界を代表して、各国政府に対して、①アデン湾に展開している戦闘艦艇の増強と各国間の協同行動、②安保理決議第1816の期間延長と海賊制圧に必要な行動の強化、③海賊を公正な法的手順によって裁くための法体制の整備を求めている。(Shiptalk, October 6, 2008)

ICS&ISFは前出のプレスリリースで、「我々は、言葉やレトリックではなく、行動を必要としている。危険にさらされているのは、船員の命であり、世界貿易の安全である」と述べ、強い危機感を表明している。ICS&ISFは、国際民間航空に同様の事態が起これば、各国政府の対応は全く違ったものになったであろうとして、海賊問題の危険性に対する各国政府の覚醒を促している。

(2) オーストラリア、中国、台湾、香港、日本、韓国及びASEAN各国の船主協会を構成する、アジア船主フォーラム(the Asian Shipowners Forum: ASF)は10月7日の声明で、合同任務部隊の最善の努力にもかかわらず、戦力の不足と参加各国間に適切な交戦規定がないことから、アデン湾を航行する船舶に対する攻撃が絶えない、と憂慮を示した。その上で、声明は、要旨以下のように述べている。

- ①ASFは、国連、国際海事機関(IMO)及び全ての海洋国家に対して、この問題に対処していく強い政治的意志を発揮するよう訴える。
- ②ASFは、アデン湾に展開している戦闘艦艇の戦力増強を、各国政府に強く要請する。
- ③ASFは、全ての船舶の船長に対して、海賊発生海域を航行する場合には、最高度の警戒態勢をとるよう勧告する。(New Straits Times, October 12, 2008)

⁸ プレスリリースは、以下のURL参照。

<http://www.marisec.org/news/pressrel.htm#08-17%20Sept>

4. 日本の対応

日本は、海上自衛隊が CTF-150 の哨戒海域で、参加各国艦艇に対して補給支援を行っている。しかしながら、この海域に派遣された護衛艦が CTF-150 と共に協同哨戒活動を行うことはできない。

日本の海運業界は、海賊行為が凶悪化すると共に、日本の関係船舶も被害にあっていることから、強い危機感を抱いている。社団法人日本船主協会は既に 4 月 21 日に日本郵船の「高山」が海賊の発砲により被弾した時に、国土交通省に対して日本関係船の安全確保に関する情報提供、関係各国との連携強化を要望している。

そして最近のアデン湾海域の状況に鑑み、船主協会は 10 月 10 日、アデン湾における海賊事案への対応の強化について、改めて国土交通大臣に要望書を提出した⁹。

それによれば、船主協会は政府に対して以下の 4 点を要望している。

- ①アデン湾の監視・取り締まり体制が確立されるよう、有志連合軍等の活動強化について国連を通じて働きかけ、日本としてもこれに貢献すること。
- ②アデン湾における警備強化について、イエメン等周辺国（警備艇の増強、海賊センターの設置等）および関係国の活動（EU 各国の海軍による定期巡回航行の提案等）に対して、日本としてもこれを協力・支援すること。
- ③現地事情の把握、情報収集活動を積極的に行うこと。
- ④日本の経済活動を支える貿易物資の輸送の確保および日本関係船舶の安全確保のため、わが国政府・関係者の総力を挙げて取り組むこと。

また、船主協会自体も、「アデン湾航行安全対策本部」を設置し、関係者間の情報共有化及び必要な対策を検討し、実施していくとしている。さらに、要望書は、各海運会社においても、「船舶が同海域を航行する際には、有志連合軍の軍艦等により監視が強化された安全回廊のように比較的安全と言われているイエメンの沿岸 30 から 40 マイル沖の航行を指示したり、英国海軍の情報収集機関 (UKMTO) ¹⁰が運用する位置通報制度へ参加するなど、可能な限りの対策を講じておりますが、これら自助努力では限界」があると強調し、政府の早急な対応を期待している。

麻生総理は、10 月 17 日の衆議院のテロ防止特別委員会で、海賊対策として派遣護衛艦の活用を検討する考えを表明した。しかしながら、「日本関係船の安全確保のため、国際条約を踏まえたわが国法制度の整備や関係各国との連携を含め、海賊行為を防止するより効果的かつ具体的な対策を図って」（前出船主協会要望書）いくには、解決すべき課題が多い。当面の課題は、新テロ対策特別措置法の改正案を成立させ、海上自衛隊の補給活動の延長を可能にすることであろう。

日本は、2009 年 1 月から 2 年間、国連安保理の非常任理事国となる。日本は前出安保理決議の共同提案国であり、また各国の対応ぶりなどから、来年以降、国連安保理の一員として国内外からの日本の具体的な行動への期待が一層高まっていくと見られる。

⁹ 日本船主協会の要望書については、以下を参照。

<http://www.jsanet.or.jp/pressrelease/index.html>

¹⁰ As UKMTO, refer to URL:

<http://www.rncom.mod.uk/templates/MaritimeOperations.cfm?id=902>

別紙

6月2日の国連安保理決議以降から10月16日までのハイジャック事案

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Stella Maris</i> *	7.20	10.9 (81)	20	Bulk Carrier	パナマ
<i>Yenagoa Ocean</i>	8.4		8	Tug/Supply Vessel	パナマ
<i>Thor Star</i>	8.12	10.16 (64)	28	Bulk Carrier	タイ
<i>Bunga Melati Dua</i>	8.19	9.29 (40)	39 (1)	Chemical Tanker	マレーシア
<i>Iran Deyanat</i>	8.21	10.10 (49)	29	Bulk Carrier	イラン
<i>BBC Trinidad</i>	8.21	9.11 (20)	13	Bulk Carrier	アンティグア・バーブーダ
<i>Irene</i> *	8.21	10.8 (47)	19	Tanker	パナマ
<i>Bunga Melati Lima</i>	8.29	9.27 (28)	41	Chemical Tanker	マレーシア
<i>Carre D'as IV</i>	9.2	9.15 (13)	3	Yacht	ベネズエラ
<i>Al Mansourah</i>	9.3	9.27 (24)	25	Bulk Carrier	エジプト
<i>Bright Ruby</i>	9.10	10.16 (36)	21	Bulk Carrier	韓国
<i>Stolt Valor</i> *	9.15		22	Chemical Tanker	香港
<i>Great Creation</i>	9.17		25	Bulk Carrier	香港
<i>Centauri</i>	9.18		25	Bulk Carrier	マルタ
<i>Capt Stefanos</i>	9.21		19	Bulk Carrier	バハマ
<i>Faina</i>	9.25		21(1)	Ro-Ro vessel	ベリーズ
<i>Genoius</i>	9.25		19	Chemical Tanker	リベリア
<i>Wail</i>	10.9	10.14 (5)	11	General Cargo	パナマ
<i>Action</i>	10.11		20	Chemical Tanker	パナマ
<i>African Sanderling</i> *	10.15		21	Bulk Carrier	パナマ

出典：Hans Tino Hansen, "Somalia Piracy Background Briefing," Version 1.3, RiskIntelligence, October 13, pp.4-5
の表に、10月16日までの他の報道資料のデータを加えて作成。

As "Somalia Piracy Background Briefing," refer to URL:

<http://www.riskintelligence.eu/gfx/somalia%20briefing%202%20october%202008%20version%201.3.pdf>

備考：IMBの2008年上半期報告書によれば、ソマリアの海賊によるハイジャック成功事案は6月末までで7回であった。表中の*は日本関係船を示す。*Stella Maris*と*Irene*は興洋海運、*African Sanderling*は長鋪汽船の関係船。*Stolt Valor*も日本の海運会社関係船で、10月16日に48時間以内の身代金要求の最後通告が期限切れとなり、緊迫した状況にあると報じられている。(Maritime Global Net, October 16, 2008)

リンク先

Antara News	http://www.antara.co.id/en/
AFP	http://www.afp.com/home/
Aftenposten	http://www.aftenposten.no/english/
American Forces Press Service (US Dept of Defense)	http://www.defenselink.mil/news/articles.aspx
AP	http://www.ap.org/
BBC News	http://www.news.bbc.co.uk/
Bernama	http://www.bernama.com/
Defence Talk	http://www.defencetalk.com/
Fairplay Daily News	http://www.fairplay.co.uk/
GMA News.TV	http://www.gmanews.tv/index.html
Headlinesindia	http://www.headlinesindia.com/
Hot News Turkey	http://www.hurriyet.com.tr/english/home/
Jane's Defence Weekly	http://jdw.janes.com/public/jdw/index.shtml
Lloyd's List	http://www.lloydslist.com/ll/home/index.htm
Maritime Bulletin-Sovfracht	http://www.odin.tc/eng.asp
Maritime Global Net	http://www.mgn.com/
MINDEF (Ministry of Defence) Singapore	http://www.mindef.gov.sg/imindef/home.html
Navy News Stand	http://www.navy.mil/swf/index.asp
Newkerala	http://www.newkerala.com/
POLITIKEN.DK	http://politiken.dk/newsinenglish
Radio Australia	http://www.radioaustralia.net.au/
Radio Netherlands Worldwide	http://www.radionetherlands.nl/
rediff News	http://www.rediff.com/news/index.html
Reuters	http://www.reuters.com/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
Shipping Gazette	http://www.shipgaz.com/
Telegraph	http://www.telegraph.co.uk/
The Canadian Press	http://www.thecanadianpress.com/
The Daily Star	http://www.thedailystar.net/
The Earth Times	http://www.earthtimes.org/
The Jakarta Post	http://www.thejakartapost.com/headlines.asp
The Maritime & Coastguard Agency	http://www.mcga.gov.uk/c4mca/mcga07-home.htm
The Moscow Times	http://www.themoscowtimes.com/index.htm
The New Straits Times	http://www.nst.com.my/
The Star	http://thestar.com.my/news/
The Straits Times	http://www.straitstimes.com/
The Times of India	http://timesofindia.indiatimes.com/
Times Online	http://www.timesonline.co.uk/tol/news/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
U.S. Naval Forces Central Command	http://www.cusnc.navy.mil/
Yonhap News	http://english.yonhapnews.co.kr/